

健やかに生き、安らかな最期を

# Living Will

2021年  
7月発行

No. 182

リビング・ウイル

映画監督

高橋伴明さん

女優

高橋恵子さん

ご夫妻

最期は

自然な形がいい

倉本聰氏が緊急提言

「そしてコージは死んだ」

○電話・メール医療相談の結果まとまる

○連載「四季の歌」ウミ



公益財団法人  
日本尊厳死協会

JAPAN SOCIETY FOR DYING WITH DIGNITY



# 最期は自然な形がいい

そろって協会会員である高橋伴明監督と女優の高橋恵子さん。ご両親を看取られ、断捨離をし、自然とともにある暮らしを味わう日々の中で、最期のあり方について語ります。

インタビュアー・構成／会報編集・郡司武  
写真／水村孝

映画監督・高橋伴明さん  
女優・高橋恵子さん  
ご夫妻

——最初から死についてお聞きするのなんですが、恵子さんのお父さんは波乱万丈な人生を送られたと、NHKの「ファミリーストリー」で知りました。どんな人生で、最期はどんなでしたか。

**恵子** 父は亡くなって30年ほどになりますが、まさに波乱な人生だったと思います。福島県の須賀川というところで生まれ、祖父とともに北海道に新天地を求めて渡り、北海道東部の標茶<sup>しゅんちや</sup>で酪農をはじめました。私はそこで生まれたんですが、その家も父と祖父で建てたと聞いています。牛7、8頭と馬や豚、鶏を飼い、ジャガイモなどを作ったりといった生活でしたね。——やがてその牧場を手放すことになるわけですね。

**恵子** そうです。牛が死んだというのも理由ですが、跡とりの問題ですね。兄がいたんですが、生まれてすぐに脳性麻痺になり3歳で亡くなりました。それで跡を継ぐのは私しかいなくなったわけですから、冷害とかいろいろなることもあり、まあ、酪農と言っても「ら」抜きの『く農』（苦惱）だよ」と父は言っていましたね。

——そうでしたか。

**恵子** そんなこともあり、父は転職を考えたんです。釧路に出て生

命保険の仕事を始めました。もともと歌が好きで、音楽家に習ったこともあったようです。俳優にもなりたかったとも言っていましたね。

「孫の顔が見られたのが嬉しかったみたい」

——その思いを、愛娘である恵子さんに託したということですね。

**恵子** まあ、そうですね。それで、それを実現したり教育を受けさせたりするには東京に出ないと、というところで、定年になったこともあり東京に移りました。そして近所の写真屋さんで中学2年の時、大映のカメラマンさんにスカウト

されたんです。何よりも親が喜びましたね。

——その後の恵子さんのご活躍を見つつ、30年前に亡くなられたわけですね。

**恵子** 胃がんで、78歳でした。入院していたのは最期の1か月ほどでしたね。がんであることは本人には伝えていませんでした。

——当時は告知しませんでしたかね。周りの人は大変でしたか。

**恵子** 気づかれないようにしながら、治る方法をいろいろ探して回りましたが、結局、手術をしないで亡くなりました。「手術しなくていいみたいよ」と言ったら、す



夢じゃないかと。

——よかったですね、伴明監督。

**伴明** ふふふ、まあ、そうですね。

### 「帰ってくるなら内緒で帰って来い、と」

——お母さんの最期はどんなでしたか。

**惠子** 6年前に89歳で亡くなりました。ずっと同居していたんですが、いろいろなところが弱り、やはり最期の1か月だけ入院しました。

——病名はなんでしたか。

**惠子** 誤嚥性肺炎がきっかけですね。前日も笑ってたんですよ、とお医者さんもおっしゃってたように、苦しい状態が続いての最期ではなかったですね。とても楽天的で豪快な明るい母でした。83歳の時でしたか、母が「元気なうちに旅行に行きたい」と言い、「どこに行きたいの?」と聞くと「ベネチアに行きたい」と。ローマとベネチアに2人で8日間旅行しました。一緒にゴンドラに乗ったり……。それがすごく思い出に残っ

——自分の娘が希望通りの道を歩み、大成し……。  
**惠子** いやいや、そんな。——そういう姿を見ての最期ですから、お父さんとしては大往生ですよな。  
**惠子** まあ、孫の顔が見られたのがとても嬉しかったみたいですよ。

——らい続いたんですか。5年ぐらい?

**伴明** いや、2年ぐらいですかね。

その頃、テレビの「ルパン三世」の脚本も書いてたんですが、それを母親が知ったとたん「大手を振って帰ってこい」と。

**惠子** 今度は、ハハハ。あら、そう、可笑しい。

**伴明** テレビに出たというのが大きかったですね。

——帰った時の入口が、裏口から玄関になったわけですね(笑い)。

それで、お母さんのその後は?

**伴明** 20年くらい前に亡くなりましたが、やはり孫まで見れたと喜

——「帰ってくるな」は、何年く

### 「意思を残しておけば、残される子どもも迷うことが少ないわけです」



たかはし・ばんめい  
1949年、奈良県生まれ。早稲田大学中退。大学時代からピンク映画の現場で活躍。1972年にピンク映画「婦女暴行脱走犯」で監督デビュー。1977年放送開始のテレビアニメ「ルパン三世」では脚本提供。代表作に「TATTOO <刺青>あり」「赤い玉」など。京都造形芸術大学教授(映画学科長)を歴任。日本映画監督協会専務理事。



たかはし・けいこ  
1955年、北海道生まれ。小学6年生から東京都府中市で育つ。中学卒業と同時に大映に入社。15歳の時に「高校生ブルース」で主演デビュー(当時は関根恵子の本名)。「おさな妻」「朝やけの詩」「ラブレター」などの主演をはじめ、テレビドラマ「太陽にほえろ!」などにも出演。1982年の高橋伴明監督との結婚を機に「高橋恵子」に。テレビドラマ、映画、CMと幅広く活躍している。

### 「娘に荘厳さを感じさせるだけの父の人生であり、最期だったのかな、と」

——たみたいですね。

——伴明監督は、お父さんをだいぶ前に亡くされてますよね。

**伴明** 私が高2から高3になる時でしたから、もう53年になりますか。49歳、脳溢血でした。前日まで、晩酌に付き合っていました。

——え?高校生ですよな。

**伴明** まあ、中学の時から付き合いってましたから(笑い)。奈良で自動車整備関係の仕事をしていたんですが、宴会中に倒れたという連絡があつて、その翌日に亡くなりました。びっくりですよ。こんなに早く逝くものかと思いましたね。それで大学に入るにも奨学金

が必要となり、母親は華道を教えたりしていましたが、まあ、大変でした。  
——入学当時、大学は学生運動のさなかでしたよね。  
**伴明** そう。行ったはいいんですが、大学は授業はないし、学内はセクトが占拠しているし……。そうじゃないセクトの人間は学内に入れない。それでもう、映画を助監督として撮り始めたんです。当時、ピンク映画と言われていたものですよ。  
——お母さんは、どんな反応でしたか。  
**伴明** 奈良に帰ってくるな、と。

んでいましたね。最期は、奈良で倒れて、弟が名古屋にいる関係で名古屋の病院に入院し、集中治療室でした。車でよく行きましたが、会話はもうなかったですね。

### 「死ぬるといふことはある意味いいわけですよ」

——お二人とも、そういうふうにご両親を看取られて、2018年10月に揃って尊厳死協会に入会されました。どんなお話し合いがあったんですか。

**伴明** 死を意識する年代になり、自分の死に方というのを考えるようになり、尊厳死協会の存在を知ったんです。たしか、映画(現在公開中の映画「痛くない死に方」)の話が出ていたところに、長尾さん(映画の原作者で尊厳死協会副理事長の長尾和宏)から聞いたのかな。

**惠子** 映画がきっかけで協会の存在を知って、それで入会したんだと思いますね。

**伴明** そうだね。それで協会に電話して揃って入った記憶がありま

す。  
——惠子さん、伴明さんから尊厳死協会の話を聞いての感想はどうでしたか。

**惠子** それは凄く大事なことだと思いましたが。死に直面した場合に、治る見込みがないのに必要以上の過剰な治療はしてほしくないわけですよ、ただ生き永らえるためのだけの医療は。そういう思いを、自分の自覚というか意思がしっかりとしているうちに残しておくことはすごく大事なことでと思います。たね。これは、ずっと思っていたことです。ただ生き永らえる命に何の意味があるんだろうか、と。いつか死を迎えるし永久に生きることはできないわけですし……。死ぬるといふことはある意味、いいわけですよ。死ねないことのほうが辛いかもしれせんよね。自然な形であの世に行けるのがいいなと思いますね。ですから、わりとすんなり受け入れました。

**伴明** 残される子どもも、本人の意思がしっかりわかっていたら迷うことが少ないわけで、そのほう

がむしろ大事なことですよね。

——お二人のお子さんには話しているんですか。

**伴明** 娘にはしたけど、息子にはしていないかなあ。

**恵子** そうね、息子にはまだですね。しなきゃいけないいわね。

## 「断捨離するとチャレンジする空間が生まれ…」

——30年近く住まれた東京・国立の広い一軒家から都心のマンションに移られたということですが、これはどうしてですか。

**伴明** 私は京都の大学で教えるようになったので、通うのにより便利な恵比寿に一人で住み、京都にも部屋を借りてました。

**恵子** 10年間、毎週、通ってましたね。映画学科の学科長もしてましたよね。今は大学は辞めましたけど。

**伴明** 辞めてから二人で三番町(千代田区)のマンションに少し住み、その後、成城(世田谷区)に2年住みました。

**恵子** 国立はいいところですが、

郊外になりますから、仕事により便利な都心の三番町に移ったんです。

**伴明** 三番町はものすごく便利で良かったんです。しかし突然、ビルのないところに住みたいとなり、成城を探してきました。成城は、せいぜい2階建てでしたからね。

それで、これまで処分しないで持っていた国立の家を売ろうとしたら「更地にしないとなかなか売れないので」と言われ……。



**恵子** 30年も経つと、庭の木も大きくなりますよね。主人の母がお

花の先生でしたから、「ここには枝垂れ紅梅を植えたらい」とか言われて植えたりしたんです。ゆくゆくはこちらに来てもらおうと思ってきましたから。30年経つとその枝垂れ紅梅も見事な木に成長し……。それも伐らなくちゃならないのか、となつて。それはとても出来ないと思つたんです。けっきよく植物に心を動かされたんですね。

——植物が国立に呼び戻したんでしょうか。

**恵子** 不思議なことに、「じゃあ戻ろうかな」と国立の家に行ったときに、これまでなかった彼岸花が3つ花を咲かせていたんです。なんか、ご先祖さまが「またここに帰ってきてくれるのか、良かったあ」と喜んでくれているように思えたんです。

——そうかもしれませんね。

**恵子** それで引越すたびに、モノを整理して断捨離したんです。

**伴明** 断捨離は、一種、気持ちの

いいものですよ。死ぬまでに整理しきりたいですよ。

**恵子** 整理すると同時に、新しいことにチャレンジできる空間が生まれるというか……。今、国立に住んで感じるのは、北海道の原野で生まれ育っていますので、鳥が来たりして鳴き声を聴くと癒される気持ちがありますね。これから、そんなに長い時間はありませんが、自然に触れることを大事にしながら暮らしていきたいと思つています。

——なるほど、そうですか。今日は、強い意思と前向きなお話、ありがとうございます。

## インタビューを終えて

若い頃から無頼派のイメージが強い伴明監督を、温かく見守るような恵子さん。まさに「比翼連理」といった印象でした。ピンク映画時代の監督とお母さんとのエピソードには、可笑しみの中に、どこか、あの時代の懐かしい匂いが……。

会報編集・郡司 武

## 尊厳死の法制化に向け

# 超党派の議員連盟が再スタート

「終末期における本人意思尊重を考慮する議員連盟」が3月24日、再スタートを切りました。参加した国会議員は、自民党や立憲民主党など超党派で165人(以後、参加表明者が増え170人)。新しい会長に野田毅元自治大臣が就任し、「高齢化が急速に進む環境のなかで、医療の現場において、きわめて大事なテーマになってきている」とあいさつ。これまでの法制化の経緯をみると、当協会は1983年10月、「末期医療の特別措置法案」を国会請願しましたが、法案は時期尚早として審議未了。さらに2003年12月、厚労相宛に「尊厳死の立法化」を求める請願

書を提出し、同時に衆参の全国会議員に立法化への協力を要請しました。これを受け、2005年4月に超党派からなる「尊厳死法制化を考える議員連盟」の設立総会が開かれ、両院議員60人が参加しました。その後2012年まで複数回にわたって法案を作成し発表、2015年に「本人意思に基づく、延命措置の不開始と中止」を内容とする法案に一本化しました。この法案は、終末期患者の意思を尊重して医師が医療の中止・不開始を行った場合、その医師の行為を免責するものとなっております。

今回の議連の素案にも、終末期の延命治療



あいさつする野田毅・新会長

の不開始または中止を「本人の意思を前提に」認める、という内容が盛り込まれています。本人意思と尊厳を最大限尊重した法整備が、再び動き出しました。

今回の再始動にあたり、日本尊厳死協会の鈴木裕也元副理事長が「国民の望む穏やかな看取りの実現に向けて」と題した講演を行い、法制化の必要性を訴えました。

## 日本財団の助成を受け「最期の医療のあり方」を考える支援事業をスタート

「最期はどうありたいか」について、人の思いは様々です。他の方々を経てきた多様なケース(事例)を、もし閲覧することができれば、今後の意思表明の助けになり、希望する医療(リビング・ウィル受容協力医師へのアクセスなど)につながることも可能ではない

か。

そのためのシステムを構築し、事例や医療にアクセスできるようにする事業で、対象となる方は、昨年1年間に「ご遺族アンケート」に回答された方や受容協力医師制度に登録されている医師。死亡時の病名や症状、年齢、

住所(市町村まで)、ご意見などのデータを収集抽出して行います(特定されないように十分に配慮)。個人情報保護は慎重に行いますが、ご自身(あるいはご家族)のデータを使用してほしくない場合は拒否できます。詳しくは協会のHPをごらんください。

# そしてユージは死んだ

倉本聰



撮影・八重樫信之

「延命」だけを金科玉条とし、「苦痛からの解放」というもう一つの大きな「医の使命」を忘れてはいまいか——。北海道・富良野の地で苦楽をともにしたスタッフの壮絶な最期の姿を前にし、脚本家・倉本聰さんが、「尊厳死とは何か」を、今あらためて、慟哭とともに告発する。

親しい友人が癌で死んだ。62歳。尊厳死協会の会員だったが、その会員証は何の役にも立たなかった。僕は今、悲しみと空しさ、怒りの中でこの文を書いている。

友人。ユージとだけ記しておこう。ユージは僕の富良野塾の創設期からのスタッフであり、四十年近い付き合いになる。ログビルダーに憧れており、カナダにも修業にやり、こつこつと一人技を磨いて塾の建築のリーダーとなった。丸太小屋を含

む十数棟の家を作り、僕の今住んでいる石造りの住宅もアトリエと呼んでいる稽古場も全て彼の作りあげたものである。九州男児。寡黙にして我慢強い、実にさわやかな男だった。

その彼が肺癌に冒されたのは、今から約二年半近く前のことである。既にステージ4と云われましたと、照れたような顔で報告に来た。後二年位が限界だそうです。彼はその齢でまだ独身であり、自分の終の棲家となる家を一人コツコツと建ててい

おり、その時膵臓癌のことと、緩和ケアの実情について、かなりの勉強を僕はしていた。殊に旭川の大病院で緩和医療を主導しておられるI先生という麻酔科の教授には台本の監修をお願いして親しくさせて

いただいた。先生は既に停年を迎えて、札幌の病院に移っておられたのだが、そのお弟子さんが旭川の医大で緩和医療室を継いでおられたので、その方に話を通していただき、緩和ケアの専門家のいない富良野の病院の担当医と密な連絡をとっていた。くことにした。そういう形でユージは在宅のまま抗癌剤治療をし、調子の良い日はそれでも仕事を続けていた。

一年が過ぎ、二年目に入って抗癌剤の副作用が始めて、治療はステロイドに切り替わった。この頃から苦痛はかなりのレベルに昇っていたはずだ。だが、無口な彼は周囲に決して弱みを見せなかったから、不覚にも僕らはその苦痛の激しさを見逃した。

その年の十一月、突然彼は自殺を図った。刃物で首を二カ所切断し、死にきれず今度は電動ドリルを心臓に突き刺して穴を開けようとした。それでもうまく行かず、たまたま訪れた他のスタッフが血みどろの彼を発見し、救急車で搬送され一命をとりとめた。

僕は仰天し、旭川から飛んできてくれた緩和医療の担当の医師に、尊厳死協会の彼の会員証を示し、助からぬものなら麻薬を打って少なくとも彼を苦痛から楽にしてやってもらえないかと懇願した。

実は、僕の義弟、妹の亭主は、骨髄癌で十数年前死んだ。彼らは大阪に住んでいたのだが、二人とも熱心なクリスチャンだった。骨髄の癌は想像を絶する苦しみに見舞われる。夫婦は丸二年間、強烈な苦痛と闘った挙句、二人で話し合い、有馬温泉にあるキリスト教系のホスピスに入る道を選択する。

ホスピスでは大量の麻薬を投与される。苦しみからは解放されるが、死は確実に覚悟せねばならぬ。彼らは話し合い、その道を選んだ。僕はその時初めて、ホスピスというものの存在を知った。

入院直後に有馬に見舞うと義弟の顔はそれまでと全くちがいが、信じられないくらい明るく転じて人が変わったようによくしゃべった。時には麻薬の副作用らしくトンチンカンな会話もまざったが、苦しみは一切彼から消えていた。ウソみたいでしょうと妹は云い、昨夜は夜中まで二人で賛美歌を歌ったの、と涙をかくして笑ってみせた。それから何と九か月も生きて、義弟は息を

る最中だった。だからその家で死にたいです、病院に入ることは絶対厭です。彼は通院して治療を受けながら、苦しみの間を盗んで自分の家を完成させようとした。僕は直ちに旭川の大病院を紹介し、同時に、尊厳死協会への入会をすすめた。

富良野は人口二万二千。協会病院という総合病院があるが、ここには旭川の大病院からの派遣医たちが主にとめていて。丁度数年前、「風のガーデン」という末期癌に冒された医師のドラマを僕は書いて

引き取った。何とも和やかな死に顔だった。その記憶が僕には強烈にあった。

だが富良野にはそういう施設はない。北海道全てを見渡してみても、数えるほどしかホスピスはない。

大病院の緩和ケアの先生は、判りましてと云ってくれた。それでも心配で内科の医師に相談した。その時返された医師の答えは、しかしまだ新薬が出来る望みもありますから最後まで希望を捨てないように、だった。札幌の麻酔科医に電話したら、今頃内科はまだそんなこと云ってるんですか！と怒った。86歳になり、死が現実のものとして近づいてきた今、僕は心底から考えている。

死はもう恐くない。だが苦しむのは絶対にいやだ！ホスピスが欲しい！誰か近くにホスピスを作ってくれないか！

一月、彼の癌は胃に移した。それでも彼は苦しみに耐えながら、在宅での闘病を懸命に闘っていた。

去年の十一月の自殺未遂が、彼自身に相当響いているようだった。自分の始末をつけられなかったこと、周囲に迷惑をかけてしまったこと、大きな恥をかいてしまったこと。

以前にも増して彼は無口になり、在宅のままステロイドの投与を受けていた。麻薬

の投与も始まっているらしかったが、彼の苦痛の表情からは明快な効果は認められなかった。

97から98あるべき血液中の酸素濃度がほとんど下がり、酸素ボンベは使っているものの彼の形相はほとんど変わっていった。

三月十四日。酸素濃度が60まで下がり、耐えかねた彼は救急車を呼んで、富良野協会病院に自分から入院した。

病院はコロナの臨戦態勢で、完全に面会禁止だったが、頼みこんで限定したスタッフの一名を、付き添いとして24時間、病室にはりつけてもらうことを許された。

何もすることの出来ない僕は、彼に長文の手紙を書いた。永い付き合いのこと、愉しかった思い出、そして感謝。最後に僕は今君の苦痛が一刻も早く去ることだけを祈っていると書いた。書きつつ今自分はまだ生きている本人に向かって弔詞を書いているという錯覚に陥った。

付き添いから翌朝電話があり、読み始めてコージはもう一枚目で泣き出して後が読めなかったという。そして最後の一行を読み終えると、「先生は俺の気持ちを判ってくれてる」と呟いたそうだ。

そのスタッフからいきなり電話で叩き起こされたのは十七日の午前一時である。コ

ージが苦しんで先生の名前を必死に呼んでいるからすぐ来てください！ということだった。夜勤の看護師さんには内緒で話を通してあります！



かけつけた時コージはベッドの上で、半分のたうちまわっていた。酸素吸入のマスクと鼻からの管は入っていたが、いくら吸っても酸素が体内に入っていないようだった。一息一息を全力で吸おうとして、声にならない声をあげていた。手を握ってやると握り返そうとしたが、その手に力も残っていないかった。労働で鍛え上げたコージの荒れた手を、僕は必死にさするだけだった。僕に向かって何か訴えるコージの声はもう声にならず、只胸を精いっぱい上下して空気を吸おうとする空しく荒い呼吸音だけが病室の空気を震わせていた。

血中酸素濃度は何と、40まで下がっていた！

楽にできませんか！何とか楽にしてやって下さい！看護師さんに懇願したが、看護師さんはさつきから既に枕元の機械のダイヤルをいじっていた。いじってはいたがコージの様態に変化はでなかった。夜勤の若い看護師さんにはそれ以上の麻薬の増量にふみこむ資格はないにちがいない。彼女たちには恐らくそれ以上の医療判断は許されていないのだ。僕は彼女たちに頼むことを諦め、コージの荒れた手を必死にさすりながら、空しい嘘を叫ぶしかなかった。

もう少しだ！もう少しがんばれば！もう少し

すぐに楽になる！

コージは虚ろな目で天井を睨み、口に装填されたマスクをひっぺがし、荒い息を吸い、すぐまた口につけた。その動作を何度くり返した。

こんなむごいことがあつていいのだろうか！鼻につき上げる涙をおさえながら心の中で僕は思っていた。

胃カメラを飲むという検査の時ですら、今病院では点滴によって意識のレベルを下げてくれ、全く苦痛なく挿管してくれる。今の医学はそこまで出来る、出来るはずなのに死を前にして彼はここまでたうちまわっている。彼の意識はすっかり生きていない、生きて苦痛の極限にいる。医学は人命を救うことを究極の目的としているというが、今日の前にくり上げられていることは、人道的と果たして云えるのだろうか。楽にできるのにしてやらないこと、これは拷問であり、明らかに非人道的行為である。こんなむごいことが許されていいのだろうか！

2時間ほど彼の手をさすり続け、荒い呼吸音が少しおさまったのを見て、僕はもう居たたまれば病室を後にした。

家に帰っても眠れなかった。

## 「役に立たなかった」を正面から受け止め

# 「運次第」の現状を変えたい

4月16日（金）に当協会の顧問である倉本聰氏から電話があり、協会に入会しているご友人が苦痛の中で悲惨な亡くなり方をしたので、そのことを書きたい、という連絡を受けました。協会のリビング・ウイルが全く役に立たなかった、という話です。協会が毎年行うご遺族アンケートでも、毎回1割弱の方が「役に立たなかった」と答えています。その内容はさまざまですが、協会はこの事実を正面から受け止め、倉本氏の許可を得てここに直筆原稿を公開し、以下、協会としてのメッセージを述べます。

役に立たなかった理由として、倉本氏は「僕のもっともひっかかるのは人命尊重」という古来の四字を未だに唯一の金科玉条とし、

苦痛からの解放というもう一つの大きな使命であるはずの医学の本分というものを、医が忘れてはいまいかということである」と記しています。倉本氏が指摘する「医学という一つの学問の中の思考のあやまり、いわば哲学の欠如」によるという事実は、私たちも看過できません。

協会は創立以来45年間、国民が自分の最期を考えてその希望を表明する「リビング・ウイル」終末期における事前指示書」を発行し、同時に協会の理念を理解するリビング・ウイル受容協力医師の登録活動を続けてきました。しかしながら、いまだ皆が安心できる状況には必ずしも至っておらず、協会の理念に賛同し、かつ医療的な技術も併せ持つ医師に出会うことは

「運次第」ということが少なからずあるのが現状です。

リビング・ウイルを所持し、それを医療者に伝えるという可能な限りの準備をしても、それを受け取る側がはるか彼方、別の世界にいては、いつまでたっても患者は安心して最期を迎えることができません。「患者の権利法」も「尊厳死法」もない今の日本で、制度としての人生会議（ACP）を推し進めるには、国民の意識を高めるのと同時に、医療者側の意識と質も同時に高めていかなければ意味がありません。

もはや死を過度にタブー視することなく、自分の最期の希望について話せる文化が根付きつつあります。協会は全ての国民が安心して安らかな最期を迎えることのできる社会の実現を目指し、国会議員、医療界、医学教育界に向けて、より一層、声を上げ、活動を進めていく所存です。

公益財団法人 日本尊厳死協会  
理事長 岩尾總一郎

様々なことが頭に飛来した。

86年人生を生きて様々な死に僕は立ち会っている。祖父の死、父の死、祖母の死、伯母の死、それぞれがそれなりの苦しみを経て、最後の息を必死で吸おうとし、それが吸えなくて息絶えた。だが今回のコージの姿は、かつて見た中で類のない程、凄惨で残酷な時間だった。

これは僻地の病院の事件で、しかも深夜の出来事であり、更にはコロナで逼迫し疲弊し果てている医療態勢の中でのことだったから致し方のないことだったのだろうか。僕にはそうは思えなかった。

断っておくが、その晩必死で対応してくれた看護師、遠くから指示を出してくれた医師、それらの医療関係者の対応を責めるつもりは毛頭ない。

僕のもっともひっかかるのは、人命尊重という古来の四文字を未だに唯一の金科玉条とし、苦痛からの解放というもう一つの大きな使命であるはずの医学の本分というものを、医が忘れてはいまいかということである。

人工呼吸、胃ろう、透析、エクモ、エトセトラ。医学は目を見張る進歩を遂げ人の生命を永びかせた。その功績は無論認める。しかし命を永びかせる、そのことに余りに

こだわりすぎたため、植物人間の存在を生

み、物理的生存を重視するあまり、たとえば尊厳死、安楽死の問題をタブーという檻の中に閉じ込めて真剣な議論の俎上にすらしめないで逃げている、そのことに僕は異和感を感じる。

果たして医は、そういうものでいいのだろうか。

たとえばコロナによる医療崩壊。入る病院が見つからなくて救急車で何軒もたらい回しにされ、あるいは医師の手に触れることも叶わず家庭で死を迎える不幸な患者。彼らはどんな死と対面するのだろうか。それはやっぱりコージのような、のたうち回つての死になるのだろうか。

医学にその技術がないなら仕方ない。しかしあるのに使ってもらえない。意識のレベルを下げることで延命のためにそれを利便性がない。そういう延命はごめん蒙りたい。苦しきから解放され、一気に死にたい。そのために僕は、尊厳死協会に入会している。コージもまたそのために入会していた。

その日の昼すぎ、コージはやつと息を引き取った。よかった！

おつかれ様！

という言葉しか、僕の頭には浮かばなかった。

四十数年前、富良野に移住を決意したとき、一番先に僕の仕事は、町を歩いて病院の所在を確認したことである。

町の中央にさほど大きくない、富良野協会病院という総合病院があった。それは都会で見るとな近代的大病院ではなく、おそらく設備や医療のレベルも最先端の都府会のものに比べて何年か遅れたものだろうと思われるが、ここに移住を決意した以上、何年か遅れの医療の基準で命を終えれば良いのだと覚悟した。

今その病院は建て直されて、四十数年前とは比較にならない設備と医療を備えた新しいものに生まれ変わっている。

だがその病院で僕はコージの、最後の日の苦しみに立ち会ったのである。

それが僻地の病院だからとは、僕は断じて思わない。

それは医学の進歩とは関係ない、医学という一つの学問の中での思考のあやまり、いわば哲学の欠如である気がする。

そのことに僕は今、口惜しさと怒りを噛みしめている。(了)

### 協会の理事・顧問医はこう考える

## 求められる緩和ケアチームの存在

協会理事・クリニック院長

満岡聰さん

在宅緩和ケアを行っている自分ならどういった治療をしたかについて述べます。抗がん剤の治療がだんだん効かなくなってきたら、積極的な治療から緩和ケアへ比重を移していくのが普通です。ある日突然、緩和ケアへ切り替えるのではなく、がんが判明した時から緩和ケアを始めます。身体的のみならず精神的・社会的苦痛、そしてスピリチュアルペインに対応することです。

コージさんの場合、自殺を図ったことから、死んだほうがましと思えるような苦痛があったのだと推察します。肺がんや転移性肺がんは呼吸器官としての肺の機能が損なわれていくため、呼吸苦が出てくることは避けられませんが、その場合、本人やご家族と話し合いつつ鎮静を行い、眠らせるということをします。そうしたお話し合いはあったのだろうかと思いました。

スピリチュアルペインは、3つの存在が脅かされた時に生じる痛みといえます。自律存在（自分で決めて行うことができる）、時間存在（先への希望

がある）、関係存在（支え支えられて生きる存在）です。推察しますとコージさんは、自律存在はもちろん、身寄りがない状態でもコロナ禍での面会制限などから関係存在も脅かされ、がんも抗がん剤も効かなくなり希望も失うという時間存在も、激しく脅かされたことでしょう。

精神的な苦痛として、うつ病の発症も十分考えられます。自殺企図を持った段階で精神科の関与も必要だったと考えます。

十分な緩和ケアが成り立つためには、緩和ケアに習熟した医師、看護師、薬剤師、介護士、社会福祉士、臨床心理士、歯科医師……ボランティアなどのチームが必要です。コージさんが全人的なケアをチームとして受けることができなければ、もしかしたら穏やかな時間が過ぎてもかもしれません、日本ではきわめて限られているのが現状です。

リビング・ウィルを書くこと、持つことは意義あることですが、その実践を託せる医療介護福祉チームがないと絵にかいた餅となります。私たちは、リビング・ウィルの普及のみならず、緩和ケアの普及も図っていかねれば

いけないと改めて思いました。

東北支部顧問・緩和ケア医

加藤佳子さん

倉本さんのメッセージについて、私の意見を3つにまとめてみました。

・コージさんから「肺がんでステージ4」と報告された時から、最期を見送るべく考えるべきであったと思います。まず大学病院の緩和ケアに相談するだけでなく、地域の医療資源の利用についてもっと考慮したほうがよかったです。コージさんも「その家で死にたいです。病院に入るのは厭」と言っています。

・「尊厳死協会に入会したから安心」という会員がありますが、医療の現場では、尊厳死協会の会員というだけではあまり役に立ちません。やはり「リビング・ウィルの宣言書」に基づいて「人生会議」を行い、詳しい手順を決める必要があります。コージさんの場合、副作用のため抗がん剤を止めた時がチャンスでした。

・コージさんと緩和ケアチームとの関わりはあったのでしょうか。緩和ケアや緩和医療はがんだけでなく、どんな病気でも行われなければならない「医療の根源」です。従って希望する医療を受けるためには、患者自身が緩和ケアを早期から積極的に求める必要があります。緩和ケアは、医療者以外

の人たちも加わったチームで患者さんを支えます。緩和医療は自殺というトランプ発生の予防にも寄与しています。

協会顧問医・クリニック院長  
野村良彦さん

コージさんのようなステージ4の肺がんの患者さんに、抗がん剤治療を当然のように行うことは、本人にとってみれば、希望ではなく拷問のように身体にダメージを受けるものなのです。せめて、抗がん治療と同時に十分な緩和医療が行われていれば、苦痛は少しでも軽減できていたのではないのでしょうか。ステージ4に抗がん剤を使えば、食不振、全身倦怠、貧血、脱毛、白血球減少による感染等々の症状が出現し、「死んでもいいから止めてほしい」という人さえないです。ですから肺がんのステージ4は、抗がん剤が優先されるべきものではありません。

日本でホスピスといえば「緩和医療をしてくれる病院付属の建物」という位置づけになっています。ところがホスピスの本来の意味は、「看取りの哲学（考え方）」であり、建物や施設を意味するものではありません。コージさんは並外れた思い入れで、ご自身の家を建てられました。ですから、ホスピスケアの哲学に則ったケアを最期まで「彼の家」で行うべきだったと思います。

季節を感じさせる1枚の写真と  
懐かしい唱歌でつづるページです

# 四季の歌

——その風景と背景

第十七回

## ウミ

●文部省唱歌

ウミハ ヒロイナ、  
大キイナ、  
ツキガ ノボルシ、  
日ガ シズム。

ウミハ 大ナミ、  
アオイ ナミ、  
ユレテ ドコマデ  
ツヅクヤラ。

ウミニ オフネヲ  
ウカバシテ、  
イッテ ミタイナ、  
ヨソノ クニ。

(『ウタノホンへ』昭16・3より)

海に向かって大きく息を吸う。大海原をわたる風とともに潮の香りが鼻に届く……。この歌を口ずさむと、幼き頃のあの海の記憶がよみがえってくるようだ。海は広いな、大きいな……。文部省唱歌だが、作詞は林柳波(1892～1974年)、作曲は井上武士(1894～1974年)。二人とも「海なし県」群馬の出身。赤城山の北と南で生まれ、同じ年に亡くなっている。

この唱歌が生まれた年の暮れ、太平洋戦争が始まる。戦時色が濃くなるなかで、児童、学童と呼ばれた子どもたちは「少国民」とされ、尋常小学校は国民学校に。当時、1年生でカタカナ、2年生で平仮名を学習するという教育方針のためカタカナの歌詞になっている。そんな空気の中で詠まれた3番の「イッテ ミタイナ、ヨソノ クニ」は海国日本の軍国教育に沿った歌詞ともいわれるようだが、「ウミニ オフネヲ ウカバシテ」と、笹舟のようなイメージに敢えてしたこと、当時の軍指導部の検定をかわしたのではないかと、ともされる。2007年、「日本の歌百選」に選ばれている。



# 終末期についての調査研究活動を強化 ——コロナ禍での事業費大幅減少と多額の寄付

公益財団法人日本尊厳死協会の2021年度の事業計画および収支予算などが、3月13日にオンライン会議にて開催された理事会で決まりました。2020年度の決算案は、6月12日に開かれたオンライン会議の評議員会で審議され、了承されました。

岩尾総一郎理事長は、今年度について、「昨年4月に公益法人として新たなスタートを切り、普及・啓発活動をより一層充実させて進めるべく予定していたが、コロナによる緊急事態宣言や自粛要請で講演会など支部活動の中止に迫られました。協会としては活動が停滞しないように、本部から理事による動画配信をスタートさせて対応している。さらに、終末期についての調査研究活動にも一層、

日本尊厳死協会の決算・予算書(要約) 単位:円 △はマイナス

科目	2020年度予算	2020年度決算	2021年度予算
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
受取会費	144,651,000	140,785,200	139,263,000
受取寄付金	5,205,000	15,518,651	8,071,000
受取補助金等	—	—	2,980,000
雑収益	1,911,000	5,707,634	1,908,000
その他収益	51,000	55,807	51,000
経常収益計	151,818,000	162,067,292	152,273,000
<b>(2) 経常費用</b>			
事業費	140,941,240	125,111,051	144,218,000
管理費	31,357,000	23,255,914	24,502,000
経常費用計	172,298,240	148,366,965	168,720,000
当期経常増減額	△ 20,480,240	13,700,327	△ 16,447,000
<b>2. 経常外増減の部</b>			
当期一般正味財産増減額	△ 20,480,240	13,700,327	△ 16,447,000
一般正味財産期首残高	601,122,296	613,849,225	613,849,225
一般正味財産期末残高	580,642,056	627,549,552	597,402,225
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
①特定資産運用益	1,000	28	1,000
②一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	1,000	28	1,000
指定正味財産期首残高	2,846,116	2,846,116	2,846,116
指定正味財産期末残高	2,847,116	2,846,144	2,847,116
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>583,489,172</b>	<b>630,395,696</b>	<b>600,249,341</b>



力を注いでいきたい」としています。

## 会員数の現況

2020年度末の会員数は10万645人で、前年度に比べ5563人の減少。昨年は約3000人、その前年が1000人の減少でしたから、会員減少傾向は悪化しています。新入会者数は2664人で前年度に比べ2610人の減少。退会者(死亡・会費3年未納除籍など)は8227人(前年度は8221人)でした。コロナによる普及・啓発活動の停滞などが要因の一つと考えられます。新入会者で最も多かったのは70歳代(約39%)で、ここ10年以上、変わっていません。5年ごとの新入会者の平均年齢は

1976年〜80年は約57歳でしたが、2016年〜2020年には約72歳になっています。

## 事業報告と計画

①LWの普及啓発事業、②登録管理事業、③調査研究及び提言事業、が事業の3つの柱。①の活動は、コロナによる緊急事態宣言、自粛要請により、20年度の講演会、セミナー及び出前講座は回数が62回、参加者数が636人(前年度は199回、8067人)でした。こうした環境下の中、オンラインでの普及・研究活動、動画配信も始まりました。受容協力医師の登録数は2012人でわずかに24人の増加。事業計画の2393人には遠く及びませんでした。電

話医療相談は受電件数が557件、相談内容が1313件(前年度は500件、1182件)でした。コロナ禍の中、メンタル面の相談が増え、電話医療相談の存在意義、重要性はさらに高まってきています。②は「会員数の現況」を参照。

③の活動として、外部有識者と協会役員からなる「LW検討委員会」の答申が出され、定款改定、LW改定及び協会の今後の戦略等について、21年度の理事会から議論を始めることになりました。また日本財団の助成を受け、「最期の医療のあり方」を考える支援事業もスタートしました。

## 21年度予算

受取会費は、1億3926万円

## 20年度決算

2048万円の赤字予算でしたが、1370万円の黒字でした。コロナ禍での活動自粛などによる事業費の大幅減少に加え、前年度の2倍を超える1552万円の寄付があったことなどによるものです。なお、今年度の協会役員は左掲の通りです。

## 2021年度 日本尊厳死協会役員等名簿

### 【顧問】

- 牛尾治朗 ウシオ電機株式会社名誉相談役
- 扇 千景 元参議院議長
- 奥田 碩 元トヨタ自動車株式会社会長
- 倉本 聡 脚本家・作家
- 小泉純一郎 元首相
- 吉永みち子 作家

### 【代表理事】

- 岩尾総一郎 医師、元厚生労働省医政局長

### 【副理事長】

- 長尾和宏 医師、医療法人裕和会理事長
- 野元正弘 医師、愛媛大学客員教授

### 【専務理事】

- 北村義浩 医師、日本医科大学特任教授

### 【理事】

- 安達俊郎 会社役員
- 小川純人 医師、東京大学大学院准教授
- 川名理恵子 公益財団法人常務理事
- 神田 麻 弁護士
- 近藤和子 看護師、マザーリング&ライフマネージメント研究所長
- 丹澤太良 公益社団法人理事
- 友納理緒 弁護士、看護師、土肥法律事務所
- 満岡 聡 医師、医療法人満岡内科クリニック理事長

### 【監事】

- 大月将幸 公認会計士、弁護士  
大月公認会計士事務所代表、LL&P総合法律事務所代表
- 藤嶋 喬 元会社役員
- 茂木敬司 会社役員

### 【評議員】

- 相澤好治 医師、北里大学名誉教授
- 伊勢田暁子 看護師、衆議院議員政策担当秘書
- 北村 聖 医師、公益社団法人地域医療振興協会シニアアドバイザー
- 鳥海房枝 保健師、NPOメディアヘルプユー理事
- 信友浩一 医師、九州大学名誉教授
- 丸尾多重子 NPOつどい場「さくらちゃん」理事長
- 宮島俊彦 岡山大学客員教授

### 【支部長】

- 宮本礼子 医師、江別すずらん病院認知症疾患医療センター長(北海道)
- 阿見孝雄 元東北支部副支部長(東北)
- 丹澤太良 理事、公益社団法人理事(関東甲信越)
- 野嶋庸平 新聞社事業委員(東海北陸)
- 長尾和宏 副理事長、医師、医療法人裕和会理事長(関西)
- 正木文治 株式会社代表取締役(中国地方)
- 西口 潤 医師 医療法人社団愛和会あさひクリニック院長(四国)
- 白髭 豊 医師 医療法人白髭内科医院院長、長崎在宅Dr.ネット副理事長(九州)

# LWのひろば

## 遠距離介護のなかで

清水陽子 76歳 東京都

17年ほど前、遠方に住む父の介護に思い始めました。しばらくして、それを知った知人から「死に臨んでも自分の思いを伝える方法がある」と言われ、尊厳死協会という存在を教えられました。そして私たち夫婦は、14年前、尊厳死協会に入会しました。父にも協会の趣旨を伝え、と、「オレの思いと同じ」と言って、すぐに入会しました。

その後、父は老人ホームに入り病気になるまで、父が尊厳死協会の会員であることを伝え、カードをお見せしました。その方は「これさえあれば大丈夫」と言ってくれました。協会のことをご存じだったようです。そしてある日の早朝、父の介護

に向かう電車のなかで携帯電話がなりました。父が突然倒れ病院に運ばれたとのこと。電話口で医師から「延命治療をしますか」と言われ、「しなくていいです」と即座に答えました。旅立った父の顔は安らかでした。

6年におよぶ遠距離介護が終わり、父の最期には間に合いませんでしたが、協会に入会するときに父の気持ちを聞いたことが私の気持ちを慰めてくれました。後悔のない介護の終わりに感謝しました。

## カードは何だったのか

松井嵯峨 91歳 神奈川県

私たち夫婦は7年ほど前に入会させていただきました。かかりつけ医も受容協力医であり、すぐに医師にカードのあることを伝えました。昨年4月、67年連れ添った夫は、

13年8か月の介護の末に亡くなりました。当然、楽に逝かせてもらえるものと思っていました。直前に友人の夫が、がんでモルヒネにより眠るように死んだことを聞いていたので、「そのようにしてもらえないですか」と質問したら「できない」と医師に言われて、為すすべもなく亡くなり、看取った私は、後悔と悲しみに暮れています。

夫は突然発熱し、膀胱炎か、いや誤嚥性の肺炎だ、となり酸素吸入をしましたが、「苦しい、苦しい」と叫び、私は体をさすることしかできませんでした。かかりつけ医が「入院を」と言いますので、「えっ、カードを伝えているのに何で？」と自宅で看取ります」と言いました。

夫は脳溢血の後遺症で長年、生きる希望もないようでしたが、それなりに穏やかに暮らしており、た。それなのに最後はこんなに苦しむのか、と神仏への不信感でいっぱいでした。一周忌を過ぎた今も、あのカードは何だったのかと悔やみます。リビング・ウィルの(2)に「私の苦痛を和らげるためには、麻薬などの適切な使用により十分な緩和医療を行ってください」と書いてある

## がんと3度闘いつつ……

野村香織 84歳 東京都

65歳で定年を迎える数年前、定期検診で胃がんが見つかり、胃を全摘出しました。ところが1年ももしないうちに今度は耳下腺にがんが見つかり、自分の最期に思いを馳せ、尊厳死協会に入会しました。

それからは待ち望んでいた山歩きを楽しみました。「日本百名山」の半分は登り、スイス・アルプスやネパール・ヒマラヤの山麓にも行きました。そんな余生を十数年楽しんでいるうちに、今度は三度目のがん、悪性リンパ腫に。療養は2年余にもなり、その間ベッド生活を余儀なくされ、腹筋が弱って歩けなくなり、今や「要介護4」の身。訪問介護のお世話になっています。

このところ身動きも何とかなるようになり、食欲もあり健康状態は良好です。陽気のいい日は、カミさんに付き添ってもらい、歩く「練習」をしています。医師から最近、「病状も回復基調にあるのでベッドで横になる時間を減らしてください」と忠告され、意識的にベッドから出るように努めている日々です。

### 編集部より

- 投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でも構いません。600字以内で。掲載(写真含む)の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス(03-3818-6562)、メール(info@songenshi-kyokai.or.jp)で。
- 写真の募集 10月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信(アドレスは同上)、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは8月15日です。

※ホームページにも掲載させていただきますので、ご了承ください。

### お力をお貸しください!

会員の方々から「ひろば」への投稿やメールで、当協会の「PR不足が残念」といった声が届いています。「声かけに協力します」と申し出てくださる方もあります。協会では入会勧誘のチラシ(写真)を用意しておりますので、送り先と枚数を協会本部までお知らせいただければ、すぐにお送りいたします。会員のみなさまのお力をお貸しください。



清らかに  
東京・上野公園の  
不忍池の蓮(7月)  
撮影/谷島輝雄(東京都)



身の回りのことはできますが、動けなくなったら居室で最期を迎えたい、と届けてあります。念のため、リビング・ウィルの「私の希望表明書」も切り取って玄関に置いてあります。ご飯がおいしいのは、体がまだ生きるつもりなんだ、と残り少ない日々を大切に過ごしている昨今です。

会員になってもLWの勉強は続きます ぜひご参加を

## 東海北陸支部

☎ 052-481-6501 ✉ tokai@songenshi-kyokai.or.jp

### 「リビング・ウイル交流サロン」を各県で開催

名古屋市内で隔月開催している『地域サロン』を、『リビング・ウイル交流サロン』に名称を統一して東海北陸支部の各県で開催していきます。

サロンは、当支部理事を交じえて、介護、医療にまつわる問題を気軽に話し合い、一緒に考えていく催しです。各回先着10人(事前申し込み)

【岐阜】8月1日(日)午後1時半～3時。じゅうろくプラザ(岐阜市、JR岐阜駅から徒歩2分)

【愛知】8月24日(火)午後1時半～3時。青木記念ホール(名古屋市中村区、地下鉄東山線中村公園駅から徒歩5分)

【三重】9月18日(土)午前10時半～12時。健やか薬局中川店(松阪市、近鉄伊勢中川駅から徒歩3分)

## 中国地方支部

☎ 082-244-2039 ✉ chugoku@songenshi-kyokai.or.jp

### 「黄昏時の診察室」書籍化のご紹介

中国地方支部理事の松本祐二医師が、人生の「黄昏時」を迎えた患者に向き合う日々の体験や思いを、山陰中央新報家庭面や石見版に連載したものに一部修正を加えてまとめたもの。タイトルは「寄り添い思う診療日誌」(いわみ談話室から)。定価1100円(税・送料込み)。アマゾンなどの書籍販売サイトからの購入が便利です。

### LW受容協力医師ご紹介の依頼

すでにLW受容協力医としてご登録いただいている方へ、新たな協力医師をご紹介いただきたい旨のお願い文を支部より発信しております。また、会員の皆さんのかかりつけ医がまだLW受容協力医としてご登録されていなければ、協会から登録依頼を試みますので、是非ご紹介ください。

※広島県下への緊急事態宣言発出時には、支部事務局に職員が不在となる場合があります。電話が繋がらない場合は、支部(全国共通)フリーダイヤル(0120-211-315)にお問い合わせください。

## 四国支部

☎ 087-833-6356 ✉ shikoku@songenshi-kyokai.or.jp

四国支部・愛媛ではコロナ禍の中、2つの啓蒙活動を行いました。①講演会の内容をケーブルテレビで放映。松山市が毎年企画する市民分科会(コムズフェスティバル)で2月、愛媛県理事2人による講演会を開催し、複数回、ケーブルテレビで放映していただき

ました。②出前講座を行いました。5月に薬師神芳洋・愛媛県会長により「がん治療とリビング・ウイル」と題した勉強会が開催されました。この勉強会は「終活サポートアドバイザー」に対して四国支部愛媛が定期的に行っているもの。

### 地域のみなさんへ

## リビング・ウイル「出前講座」はいかがですか

- ご依頼により講師を派遣します
- 会場のご用意をお願いします
- お問い合わせは支部までどうぞ

医療相談  
(通話無料)

0120-979-672

月・水・金曜日  
午後1時～5時  
(変更あり)

協会本部で、お電話お待ちしております。ご遠慮なく、どうぞ!

病気や気になる症状、特に終末期にかかわる不安や悩みについて、相談員(看護師)が丁寧にお聴きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

医療相談は、協会が最も重視している会員向けの無料サービスですが、一般の方でもご利用いただけます。会員・未会員は確認させていただきます。お電話をお待ちしています。

協会宛メール(✉ info@songenshi-kyokai.or.jp)でも受けつけております。

### (事前にお問い合わせを)

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないなか、支部の催し物の開催が中止になる場合がございますので、事前に各支部にお問い合わせくださいますよう、お願いいたします。なお、ご来場の際は、ご自宅での検温およびマスクの着用にご協力をお願いいたします。

## 北海道支部

☎ 0120-211-315 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.or.jp

### 支部長就任のごあいさつ

これまで内科医として、高齢者の身体疾患と認知症疾患に長年携わってまいりました。また、2012年からは毎年札幌で「高齢者の終末期医療を考える会」を開催してきました。今後は、誰もが穏やかな最期を迎えられるように、リビング・ウイルの普及啓発と受容協力医師の獲得に努めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。(宮本礼子)

「尊厳死協会の人生会議」13回と14回は、7月13日

(火)、9月14日(火)に札幌エルプラザ4階中研修室で午前10時～12時に行います(要申込・先着順)。講師は顧問の江端英隆医師。テーマは「コロナおよびALSと尊厳死」(13回)、「コロナと尊厳死および肺移植について」(14回)。問い合わせは、岩崎(090-1386-2025)まで。

※ホームページで動画セミナーも行います。テーマは①認知症の終末期と尊厳死、②日本と欧米諸国の高齢者終末期医療の違い。講師は支部長の宮本礼子医師。

## 東北支部

☎ 022-217-0081 ✉ tohoku@songenshi-kyokai.or.jp

### 第39回「リビング・ウイル交流サロン 支部長との電話・メール交流・相談会」

日程◎ 7月16日(金)午後2時～3時半

流れ◎ 7月14日(水)まで東北支部宛に「相談の件」と連絡、電話番号かメールアドレス、「相談内容の骨子」をお知らせください。電話相談はお申込み順です。7月16日に支部長が電話

を差し上げるおおよその時刻をお知らせします。当日は上記の時刻に電話を差し上げ、ご相談の質問にお答えします(原則15分以内)。メールでのお申し込みはtohoku@songenshi-kyokai.or.jp宛で。件名に「相談会」とご記入ください。20日以降にご返事します。専門的なご質問には、支部理事の専門家の意見を聞いてお答えします。

なお、お電話内容を正確に理解するため、通話を録音しますのでご了承ください。

## 関東甲信越支部

☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.or.jp

### サロンin本郷

「尊厳死」や「リビング・ウイル」などについて語り合ひましょう。参加は無料です。コロナ禍の影響によっては中止することもありますので、事前の確認・予約をお願いします。7月9日(金)、24日(土)、9月10日(金)、25日(土)、10月8日(金)、23日(土)。いずれも午後1時半～3時。会場は支部事務所(日本尊厳死協会内)。

※「サロン」はオンラインでも月に1回開催しています。日時、申し込み等についてはホームページをご覧ください。参加は無料です。

### オンライン講演会

8月28日(土)午後2時半～4時に「最期まであなたらしく過ごすために」のテーマで、鈴木央医師(鈴木内科医院院長、全国在宅療養支援診療所連絡会副会長、支部理事)が講演します。

7月28日(水)からメールで申し込みを受け付けますので、「8月28日オンライン講演会参加」、お名前、Zoom招待状送付先のメールアドレスを明記のうえ、kantou@songenshi-kyokai.or.jpまでお申し込みください。定員80人(先着順)。予定に変更が生じた場合は個別にご連絡します。

## 私の希望表明書

私は、協会発行の「リビング・ウィル（終末期医療における事前指示書）」で、延命措置を受けたくないという意思をすでに表明しています。それに加えて、人生の最終段階を迎えた時に備え、私の思いや具体的な医療に対する要望をこの文書にしました。自分らしい最期を生きるための「私の希望」です。

記入日 年 月 日 本人署名

希望する項目にチェックを入れました。

1. 最期を過ごしたい場所（一つだけ印をつけてください）  
自宅    病院    介護施設    分からない  
その他（ ）
2. 私が大切にしたいこと（複数に印をつけても構いません）  
できる限り自立した生活をする    大切な人との時間を十分に持つこと  
弱った姿を他人に見せたくない    食事や排泄が自力でできること  
静かな環境で過ごすこと    回復の可能性があるならばあらゆる措置を受けたい  
その他（ ）  
※以下「3」と「4」は、「ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りします」という表現では伝えきれない希望や、「止めてほしい延命措置」の具体的な中身を明確にするためのものです。
3. 自分で食べることができなくなり、医師より回復不能と判断された時の栄養手段で希望すること（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）  
経鼻チューブ栄養    中心静脈栄養    胃ろう    点滴による水分補給  
口から入るものを食べる分だけ食べさせてもらう
4. 医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）  
心肺蘇生    人工呼吸器    気管切開    人工透析    酸素吸入  
輸血    昇圧剤や強心剤    抗生物質    抗がん剤    点滴
5. その他の希望

### 【用語の説明】

- 心肺蘇生**：心臓マッサージ、気管挿管（口や鼻から気管に管を入れる）、電氣的除細動、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為。
- 人工呼吸器**：自力で十分な呼吸ができない状態の時に、肺に機械ポンプで空気や酸素を送り込む機器。マスク装着のみで行う場合もあるが、重症の際はチューブを口や鼻から入れる気管挿管を行う。1～2週間以上続ける場合は、のどに穴を開ける気管切開（喉仏の下から直接気管に管を入れる）をしてチューブを入れる。
- 胃ろうによる栄養補給**：内視鏡を使い、局所麻酔で胃に管を通す手術を行う。その管を通して栄養を胃に直接注入すること。

## 2020年度「電話医療相談」の結果まとまる

# コロナ禍でのメンタル相談の増加と受容医への期待と要望



「肺炎で入院し、気管切開と経鼻栄養をおこなっている75歳の夫は、意識は明瞭で退院を強く希望している。協会の受容医の訪問診療を受けながら自宅で夫の希望を叶えてあげたい」（70歳、女性）

「74歳の妻は長年、原因不明の慢性疼痛で苦しんでいる。モルヒネを試してみたいが、近くの受容医で緩和ケアを担当しているクリニックを紹介してほしい」（88歳、男性）

「99歳の母は、施設で『看取りの段階に入っている』と言われ、週に1～2回の点滴をおこなっている状態。家族や兄弟は点滴を中止することに同意し、施設側も『いつでも外す』と言うが、コロナ禍で面会制限がある中での看取りは辛い。どうしたらいいか」（70歳、男性）

「コロナ禍の中で日常生活に張りがなくっている。持病の膠原病の数値は異常ないが、倦怠感もあり自律神経失調症と言われた。解消が見つかからない」（76歳、女性）

2020年4月から2021年3月までの「電話医療相談」は、まさにコロナのただ中にある医療相談でした。日本尊厳死協会では相談員スタッフ（看護師2人）が交代で対応していますが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言により、4月初めから5月初めまでの約1か月間は相談を休止し、その後は在宅ワークに切り替えて相談にあたり、現在に至っています。

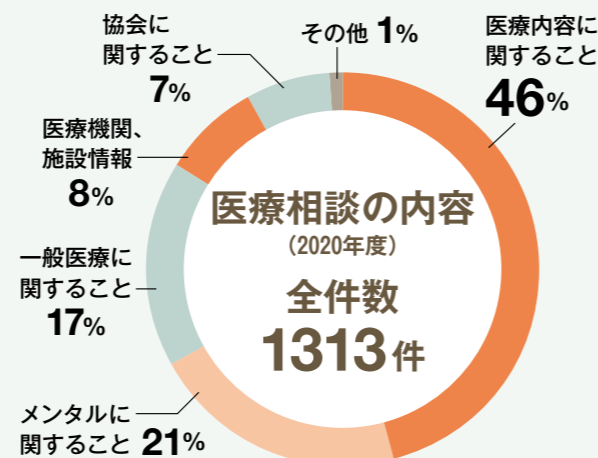
このほど、その2020年度の相談結果がまとまりました。相談件数は557件で、過去2年

（461件、500件）に比べ微増傾向です。内容項目別件数は（相談1件につき複数の内容項目にわたる）は1313件で、これも過去2年（1006件、1182件）に比べ、増えています。

### 自粛生活での閉塞感

相談内容を項目別でみてみると、「尊厳死についての」医療内容に関することが全体の半数近い604件（46%）、次いでメンタル相談が271件で約21%。尊厳死に関わる相談は例年半数前後で変わりませんが、メンタル相談は、過去2年（13%、19%）に比べて増えています。「コロナ感染への漠然とした不安と恐れ、自

粛生活での閉塞感・孤立感、身体への衰え、受診控えなど訴えはさまざま。会員数に対してメンタル相



談者は1%にも満たないけれど、尊厳死協会を心の拠り所ととらえ、「話したい、聴いてほしい」の思いが切実に伝わってきました」と、この1年を相談員スタッフは振り返ります。

こうしたメンタル相談の増加とともに感じたこととして、冒頭の相談例にもあるように、「尊厳死協会の趣旨に賛同し、尊厳死を尊重してくれる受容医への期待と要望がいかに大きいかということでした」と相談員スタッフは話しています。

（郡司記）

## ご寄付ありがとうございました (敬称略)

ご寄付いただきまして誠にありがとうございました。対象期間は、令和3年3月1日から令和3年5月31日までにご寄付いただいた方々です。職員一同深く感謝します。普及啓発事業等に有効に活用させていただきます。

隅田叙子	30,000	蛭谷 衛	900	竹井幸江	5,000	匿名・東京都	12,487
久保田正則	4,032	原 利子	5,000	曾澤明雄	20,000	匿名・東京都	50,000
西 裕子	10,000	鮫島瑞枝	2,000	荒井和子	5,000	匿名・東京都	1,420
安藤浩行・静子	10,000	福田幸子	2,000	菊池捷子	10,000	匿名・東京都	2,000
早川美代子	5,000	森谷ヒデ	3,000	臼村喜久代	10,000	匿名・東京都	10,000
山中みゆき	6,000	坂本一二子	5,000	中川悦子	2,000	匿名・東京都	2,768
平野幸子	5,000	安孫子孝夫	10,000	医療法人向日葵会		匿名・東京都	8,800
塚本達夫	1,000,000	富内雄二	10,000	鈴木悦朗	9,848	匿名・埼玉県	8,900
山本英代	2,000	井上 進	10,000	平賀静子	24,878	匿名・埼玉県	5,000
山川絹子	1,000	森元米子	1,900	石川 漸・京子	100,000	匿名・千葉県	194,641
加藤宏典	10,000	桑野静子	30,000	菅波瑛子	5,000	匿名・千葉県	20,000
粕谷鶴代	1,000	仲井あい子	2,000	大友千鶴子	10,000	匿名・千葉県	11,502,233
岩村 巖	4,000	松井智美	10,000	高木久江	5,000	匿名・神奈川県	10,000
光武勝信	4,000	小山眞市	20,000	広澤達枝	10,000	匿名・神奈川県	10,000
佐野弘一	2,000	藤本一雄	5,000	畑 昌子	5,800	匿名・神奈川県	5,000
塩見和子	5,000	弘島美代子	30,000	東 文恵	12,000	匿名・神奈川県	20,960
福居八重子	42,480	宮川由美子	100,000	柳澤輝昭	3,192	匿名・神奈川県	5,000
吉松弘二	51,255	高田正子	10,000	久野美子	20,000	匿名・神奈川県	900
田代義人	3,000	横山美江子	8,900	匿名・北海道	10,000	匿名・愛知県	100,000
内藤静江	3,500	西野澄	100,000	匿名・北海道	5,000	匿名・愛知県	15,108
大石佐和子	10,000	山口隆	5,000	匿名・宮城県	15,154	匿名・兵庫県	20,000
木村伸一	10,000	唐木田陽一	10,000	匿名・茨城県	18,358	匿名・兵庫県	2,000
鷺見弘一	10,000	下出順子	1,168	匿名・東京都	20,000	匿名・兵庫県	20,000
近藤 弘	10,000	長岡理美子	1,168	匿名・東京都	100,000	匿名・高知県	30,000
土岐陽子	100,000	神戸明治・千英	100,000	匿名・東京都	3,000		
杉田茂子	10,000	新川順吉	2,260	匿名・東京都	10,000		
大森まさ子	10,000	平山民子	11,014	匿名・東京都	10,000		

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用下さい。切手でのご寄付もお受けいたします。いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であること、また、「匿名」希望の場合は、「匿名希望」とお書き添え下さい。三菱UFJ銀行神田支店「普通口座0048666」も寄付口座として新設しましたので、併せてご利用下さい。「匿名」希望の場合は、依頼人名欄に「匿名希望」とご入力下さい。

## 多額の寄付が寄せられました

60代の女性会員から1100万円を超える多額の寄付をいただきました。4月下旬に「寄付を考えています。広報活動などに役立ててほしい。それと入会勧誘のチラシを送って欲しい」との電話がありました。「尊厳死協会の活動は高齢社会では必要な活動。今後も広報・普及活動にいつそう力を入れて、協会の活動内容を市民に広く告知して欲しい」とのことでした。あらためてお礼を申し上げます。

## LWの受容協力医師

第104報

2021年3月～5月の間に新しく登録なされた医師の方々です。

内:内科 循:循環器科 呼:呼吸器科 消:消化器科 呼内:呼吸器内科 消内:消化器内科 外:外科 整:整形外科 小:小児科 放:放射線科  
リハ:リハビリテーション科 皮:皮膚科 肛:肛門科 泌:泌尿器科 心内:心療内科 脳外:脳神経外科 緩:緩和ケア科

[会員医師は会とする]

医療施設名	診療科	医師名 (敬称略)	施設所在地	電話
いまいホームケアクリニック	内・脳外・小・皮	今井 浩平	北海道札幌市中央区宮の森3条1-1-38	011-215-8098
吉川内科医院	内	岩崎 昌樹	東京都世田谷区松原3-28-8	03-3323-0661
蘭松医院	内・循・皮・アレルギー	趙 康明	東京都杉並区成田東5-36-11	03-3393-1477
立川在宅ケアクリニック	緩	小島 一男	東京都立川市幸町5-71-16 コンフォートフラッツⅢ 1階	042-534-6964
よこはま あおとクリニック	内	畑中 延介	神奈川県横浜市緑区青砥町879-2	045-482-7567
クローバーホスピタル	呼内	若木 美佐	神奈川県藤沢市鶴沼石上3-3-6	0466-22-7111
フロムワン附属診療所	内	佐藤 眞紀子	神奈川県横須賀市交野町3-68-3	046-876-8780
杉浦医院	内	頃安 英毅	埼玉県川口市本町4-4-16-301	048-222-5015
杉浦医院	内	西郡 真理奈	埼玉県川口市本町4-4-16-301	048-222-5015
済生会川口総合病院	循内	田中 孝幸	埼玉県川口市西川口5-11-5	048-253-1551
大宮共立病院	内・外・一般総合	猪原 則行	埼玉県さいたま市見沼区片柳1550	048-686-7151
みなクリニック内科呼吸器科	内	柳生 久永	茨城県つくば市西平塚318-1	029-850-4159
諏訪赤十字病院	救急	人宗 遼	長野県諏訪市湖岸通り5-11-50	0266-52-6111
大阪鶴見ひなた内科・在宅クリニック	内・呼内・循内・糖内・在宅・緩	川畑 仁貴	大阪府大阪市鶴見区緑1-11-3 ベルデカーサ 1・2階	06-6923-9277
岩崎内科医院	内・循	岩崎 淳	山口県岩国市南岩国町1-30-13	0827-31-4815

### 【受容協力医師についてのご案内】

全国に2,000人ほど登録しているLW受容協力医師のお名前は、協会各支部のホームページ(HP)で閲覧することができます。各支部HPへのアクセスは本部のHPからのリンクをご利用ください。**会員専用認証パスワードは「jsdd(半角小文字)」です。**紙に印刷した受容協力医師リストをご希望の方は、各支部にご連絡ください。ファクスか郵送でお送りいたします。

### ● LW受容協力医師をご推薦ください

会員のみなさまの不安として、周辺に受容協力医師がないことがあるかと思えます。そうした不安を少しでも和らげるため、本部では、みなさまのかけつけ医師をご紹介いただければ、その医師に「LW受容協力医師の登録」をお願いします。

会員の方の①お名前、②会員番号、③お電話番号、④かけつけ医師のお名前(病院名)・住所・お電話番号を、本部「受容協力医師担当」まで、電話、ハガキ、手紙、FAXまたはメールでお知らせください。

### ご支援のお願い

1976年に設立された日本尊厳死協会は2020年4月、一般財団法人から公益財団法人に生まれ変わり、新しい時代を迎えました。これからも「尊厳ある死」の社会実現のためにさらなる活動を続けてまいります。会員のみなさまの年会費(2000円)で全ての活動費を賄うことは難しいのが現状です。さらにきめ細かな、会員のみなさまに寄り添った活動をおこなうためにも、ご寄付をお願いできればと思います。ご協力をお待ちいたしております。

公益財団法人への寄付金と会費は、特定公益増進法人への寄付金として、税制上の優遇措置があります。なお多額のご寄付をいただいた個人、法人には紺綬褒章の制度もあります。詳しくは協会のHP (<https://www.songenshi-kyokai.or.jp/>) をご覧ください。お電話でもお問い合わせください。

## ●本部

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-27-8  
太陽館ビル501  
TEL 03-3818-6563  
FAX 03-3818-6562  
メール  
info@songenshi-kyokai.or.jp  
ホームページ  
https://www.songenshi-kyokai.or.jp/  
郵便振替口座  
東京00130-6-16468

## ●北海道支部

事務所は5月末日で閉鎖となりました。  
今後のお問い合わせは本部まで。  
フリーダイヤル 0120-211-315

## ●東北支部

〒980-0811  
仙台市青葉区一番町1-12-39  
旭開発第2ビル703号室  
TEL 022-217-0081  
FAX 022-217-0082

## ●関東甲信越支部

〒113-0033  
東京都文京区本郷2-27-8  
太陽館ビル501  
TEL 03-5689-2100  
FAX 03-5689-2141

## ●東海北陸支部

〒453-0832  
名古屋市中村区乾出町2-7  
正和ビル2階  
なかむら公園前法律事務所内  
TEL 052-481-6501  
FAX 052-486-7389

## ●関西支部

〒532-0003  
大阪市淀川区宮原4-1-46  
新大阪北ビル702号  
TEL 06-4866-6365  
FAX 06-4866-6375

## ●中国地方支部

〒730-0024  
広島市中区西平塚町2-10  
TEL 082-244-2039  
FAX 082-244-2048

## ●四国支部

〒760-0076  
高松市観光町538-2  
あさひクリニック内  
TEL 087-833-6356  
FAX 087-833-6357

## ●九州支部

事務所は3月末日で閉鎖となりました。  
今後のお問い合わせは本部まで。  
フリーダイヤル 0120-211-315

各支部HPへのアクセスは  
本部HPからのリンクをご利用ください。

# リビング・ウイル Living Will

(終末期医療における事前指示書)  
(2017年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に  
私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私  
自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成  
しない限り有効であります。

□ 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であ  
り、既に死が迫っていると診断された場合に  
は、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延  
命措置はお断りいたします。

□ ただしこの場合、私の苦痛を和らげるため  
には、麻薬などの適切な使用により十分な緩和  
医療を行ってください。

□ 私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物  
状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめ  
てください。

以上、私の要望を忠実に果たして下さった方々  
に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要  
望に従って下さった行為一切の責任は私自身にあ  
ることを付記いたします。

## リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わ  
りが近づいたら延命措置を望ま  
ないで、自然の摂理にゆだねて  
寿命を迎えるご自分の意思を表  
した「リビング・ウイル」を発  
行、その普及に努めています。

現在約10万人の方々が「リビ  
ング・ウイル」を持ち、安心し  
た日々を送っています。自然の  
まま寿命を迎えることは、最期  
の日々をよりよく生きること  
であり、今を健やかに生きるこ  
とにつながります。

お友だちやお知り合いに協会  
や「リビング・ウイル」のことを  
お伝えいただければと願ってい  
ます。

## 事務局から

# 会費の自動払込のご案内 希望者はこちらご連絡ください

年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から自動  
引き落とし)があります。利用には諸手続きが必要ですので、  
ご希望の方は本部事務局までご連絡をお願いします。次の要  
領で実施しております。なお郵便局窓口では申し込めません。

- 対象 ▶ ご希望の会員
- 払込日 ▶ 会費払込該当月の28日(28日が土日  
祝日の場合は翌営業日に引き落とし)
- 払込額 ▶ 会費相当額
- 手数料 ▶ 1回の払込に165円(150円+税)の  
ご負担があります
- 取扱 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、  
金融機関 ゆうちょ銀行、農協含む)
- 領収書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印  
字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可  
能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の  
納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷して  
あります。銀行振り込みの場合は会員番号(00を省く)も  
記入して下さい。なお振込手数料は郵便局窓口が203円、  
郵便局ATMが152円、コンビニが66円です。



今号の1枚  
「あじさい映える」

●テレビドラマ「北の国から」は、  
脚本家・倉本聡さんの代表作で  
すが、日本のテレビドラマ史上、  
類例のない、長期大河ドラマ、  
とっていいでしょう。そのス  
タッフとして、あのログハウス  
を手造りした「コージさん」の  
最期のあり方について、協会顧  
問でもある倉本さんが緊急提言  
を寄せられました。この提言は、  
翌月の国会でも取り上げられ、  
終末期医療のあり方についての  
質疑がなされています。

三年ほど前の会報(168  
号)の巻頭インタビューを思い  
出します。倉本さんが、これまで  
の自らの「死と別れ」について  
訥々と語りました。「生きる望み  
を失ったとき人間は自裁しても  
いいと思う」「目的がなくなると長  
生きするというのは僕にはよく  
わからない」……今も、そんな  
言葉が耳に残ります。今回の緊  
急提言にも「思考のあやまり」  
「哲学の欠如」といった強い文言  
があります。この提言は、インタ  
ビューの続編でもあるのでしょ  
う。(郡司)

※表紙の下方にQRコードを付けたので、ご利用下さい。

# Living Will 目次

— 会報2021年7月 No.182 —

- 02 巻頭インタビュー  
映画監督 高橋伴明さん  
女優 高橋恵子さん ご夫妻
  - 07 法制化に向け議員連盟再スタート
  - 08 倉本 聡さんが緊急提言  
「そしてコージは死んだ」
  - 14 連載「四季の歌」ウミ
  - 16 21年度事業計画・予算決まる
  - 18 LWのひろば
  - 20 支部活動・報告  
2021 夏～秋
  - 22 私の希望表明書
  - 23 20年度「電話医療相談の結果」
  - 24 LW受容協力医師のリスト
  - 25 寄付された方々
  - 26 事務局から／編集後記／目次
  - 27 終末期医療における事前指示書／  
本部・支部一覧
- 裏表紙 出版案内

協会会員：9万9969人  
(2021年6月4日現在)

次号は、  
2021年10月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。  
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

## 編集後記

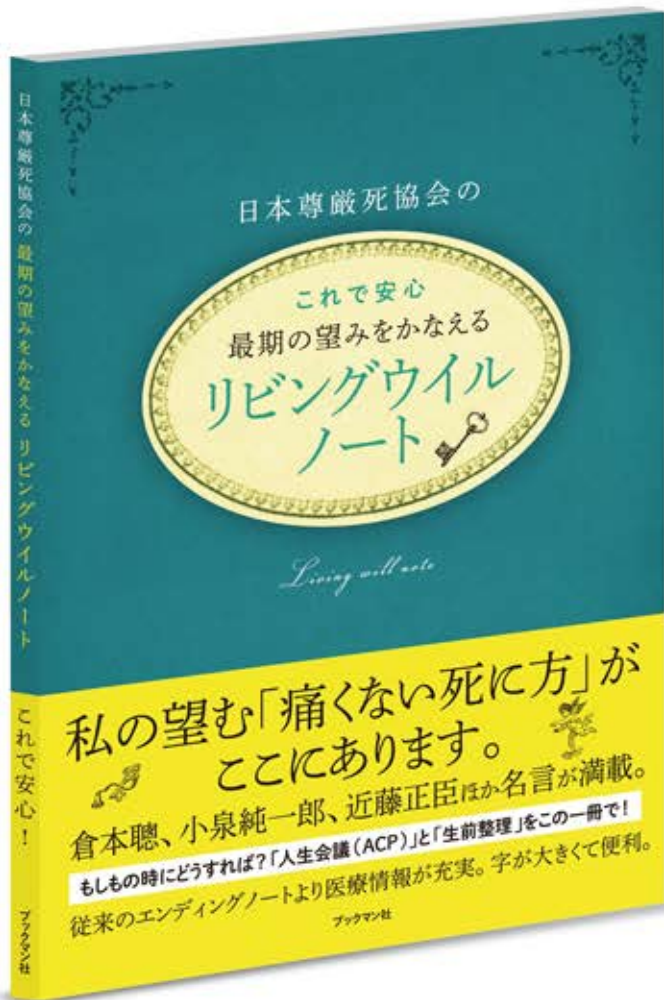
日本尊厳死協会の出版案内

好評  
発売中!

最期の望みをかなえる

# リビングウイルノート

私の望む「痛くない死に方」がここにあります。



## 主な内容

- 尊厳死協会の会報「Living Will」のインタビューに登場された、小泉純一郎・元首相や脚本家の倉本聡さん、俳優の近藤正臣さん、秋野暢子さん、仁科亜季子さん、作家の北方謙三さんの名言を再録。
- 延命措置やACP(人生会議)など医療情報の解説や尊厳死協会の役割などのほか、「私の病気の記録」や「もしもの時の確認メモ」(健康保険証や基礎年金の番号など)、「終末期の最期の過ごし方の希望」「食べることができなくなった時の希望」……など、書き込むページや欄もたくさん詰まった**エンディングノートの決定版**。
- 「旅立ったあとで～大切な人へのメッセージ」や「旅立つ前に会っておきたい人」、「葬儀に呼んでほしい人」を書き込むリストの欄も充実

発行:ブックマン社  
定価:1100円(税別) A4判104ページ

この「リビングウイルノート」には、  
あなたの「リビング・ウイル」を入れるスペースがあります。  
是非お手もとにセットで!!  
もしもの時にそなえ、こころの「生前整理」を